

低樹高くり栽培での優良結果母枝の選び方

農業研究センター 球磨農業研究所

研究のねらい

くり樹の若返りや農作業安全と能率化のためには、低樹高栽培が適しているが、反面、徒長枝が多発しやすいため収量が不安定となりやすい、この解決のためには、剪定時に良い結果母枝を残すことがポイントとなる。

そこで、結果母枝の良し悪しと結実の関係や優良結果母枝の判断基準について検討した。

研究の成果

1. 優良結果母枝の判断基準

結果母枝の長さ、その基部及び先端の大きさと結実の関係を検討した結果、次のような判断基準が得られた。

- (1) 結果母枝の長さでは、30 ~ 80cm(品種間で若干の差があり)で基部径は6mm以上(鉛筆大)で太く、先端は3mm以上で節間がつまり、ずんぐりとして充実したものを選ぶ。

2. 二次伸長結果母枝、遅咲き結果母枝の利用効果

- (1) 前年の夏~秋にかけて二次伸長した結果母枝の収穫量は、二次伸長していないのに比べて丹沢で1.8倍、筑波で1.2倍も高いことから、次年の結果母枝として十分に活用したい。
- (2) 遅咲きした結果母枝の収穫量についても、遅咲きしていないものに比べて1.2倍ほど高いことから、次年の結果母枝として十分に活用したい。

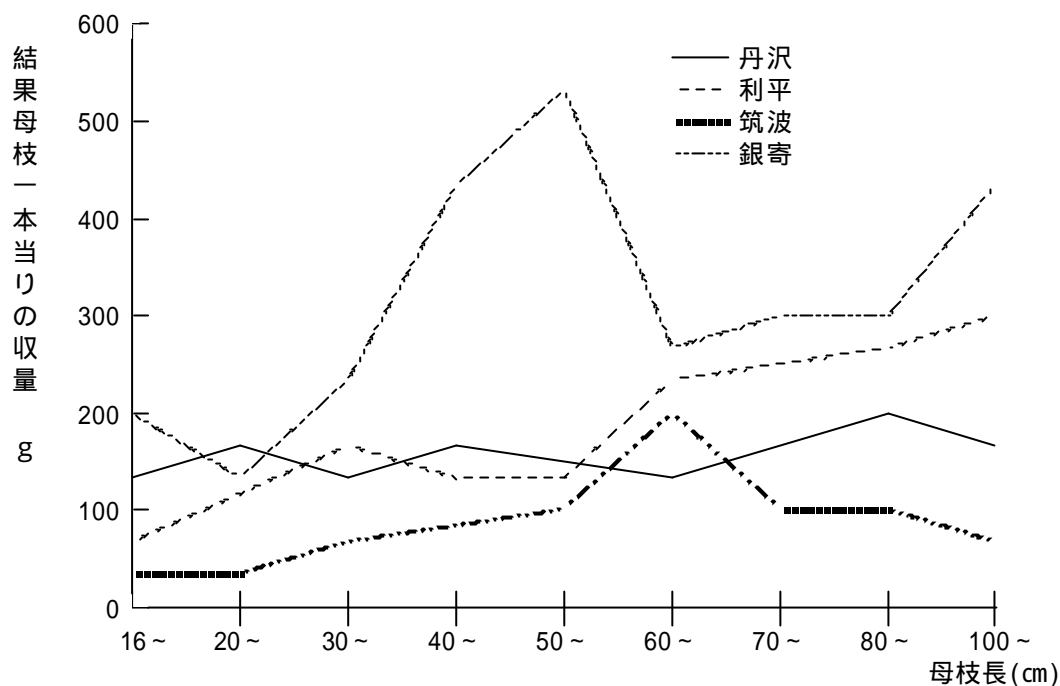
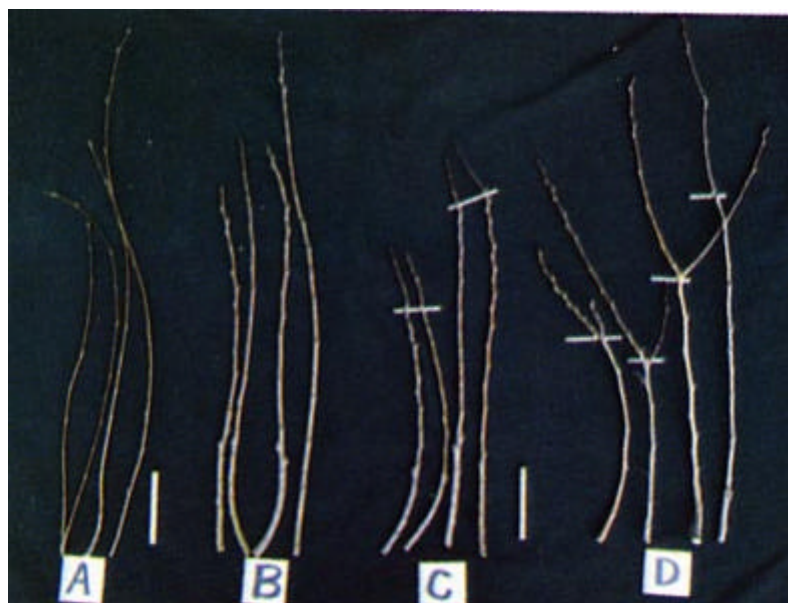


図1 品種別、結果母枝の長さとう収量



A : やせ細っており来年結実は望めない(日照不足)

B : 先端部まで充実した優良結果母枝

C : 遅咲きした優良結果母枝(白線より上)

D : 二次伸長した優良結果母枝(白線より上)

写真 結果母枝のタイプ

表1 優良結果母枝の簡便な判断基準

品種	母枝長 (cm)	基部の状態	先端の状態
丹沢	30 ~ 50	6mm以上 (鉛筆大)	3mm以上で、節間がつまり、 ずんぐりとして充実したもの
筑波	30 ~ 60		
銀寄	30 ~ 70		
利平	30 ~ 80		

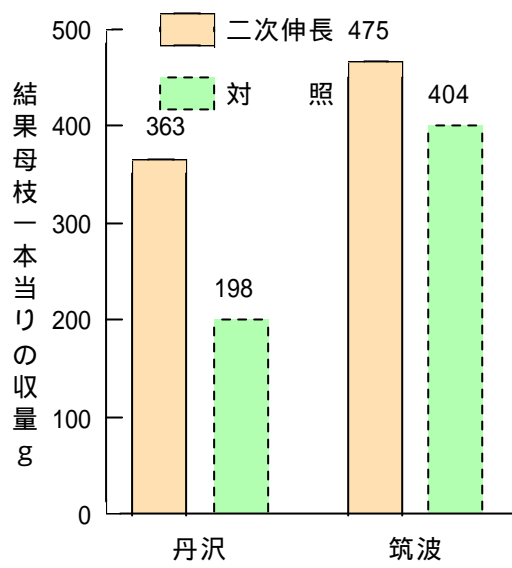


図2 二次伸長結果母枝の収穫量（丹沢、筑波）

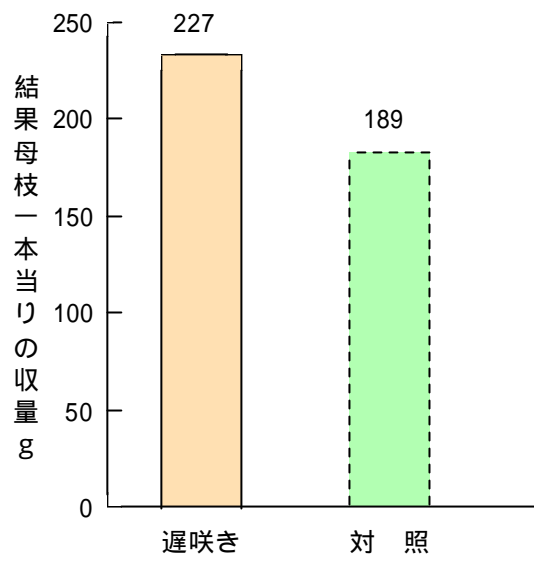


図3 遅咲き結果母枝の収穫量（筑波）